

編集後記

風薫る5月となった。この度の春の叙勲で、本誌の編集顧問である天児民和先生が勲一等瑞宝章に叙せられた。まことにめでたいことであり、心から御慶び申し上げる次第である。

さて、今月の特集は「リハビリテーションにおけるリスクとその対策」である。元も子も無くしてしまうという言葉もあるし、最近のように医療過誤訴訟が盛になってきた世の中では、治療者側の善意の行為が、どのようなしっぺ返して報われるかもしれない。リハビリテーション医療を行うに当ってはリスクは熟知しておかねばならない重要な項目である。

片麻痺について藤田氏は脳卒中再発、心不全を中心に、その他HDLコレステロール、血小板凝集能について述べ、骨折その他については枚数の関係で割愛された。四肢麻痺について安藤氏は、生命的危険度のみならず、機能的回復を低下させる可能性のあるものを含めて、リスクファクターとして検討された。進行性筋ジストロフィーについて湊氏は、重要な死因である心機能不全と肺機

能不全について検索された結果を述べられた。慢性関節リウマチについて間氏は、“ある手段を用いることが病態への利益と不利益（ないしはリスク）の両面を有するという矛盾した面があること”を指摘され、生命に関するリスクの他に、リハビリテーションの阻害因子となるものまでも加えて詳述された。慢性呼吸不全について中田氏は、呼吸練習、体位ドレナージ、吸入療法、酸素吸入、運動療法に際してのリスクを挙げられた。以上、いずれの論文も実地臨床上に大いに参考になるものと思われる。

今月は「研究と報告」欄に、木村氏ら、林氏ら、藤田氏らの計3篇の原著が載った。いずれも大変興味ある論文であった。今後ともこの欄が活発に利用されることを期待したい。

土肥豊教授による循環器入門講座は今月は第5回目であり、次号で完結の予定であるが、循環器学の勉強に恰好のものであった。半年間に亘る執筆の労に謝意を表する次第である。

(横山 巖)

次号予告 (第7巻第6号)

特集 脳性麻痺

診断のための基礎的神経学と分類……………	都神経研	中村 隆一
超早期療育とリスク……………	都立北療育園	中島 雅之輔
最近の治療の展望……………	高知子鹿園	江口 寿榮夫
職業復帰、就学、就職について……………	筑波大	五味 重春
米国の脳性麻痺患者の就職の概要……………	Moss Reh. Center	Thomas Strax
日本の就職の実例……………	文京区役所	高品 典明

講座 リハビリテーション医のための循環器入門(6)

(心筋疾患とくに特発性心筋症)……………埼玉医大 土肥 豊

リハビリテーションにおける治療(6)

(片麻痺の歩行訓練)……………中伊豆リハセンター 兼松 英夫

一頁講座 リハビリテーション用語集(12)……………横浜市大 生田 宗博

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
小池 文英
杉山 尚
砂原 茂一
津山 直一
水野 祥太郎

編集委員

明石 謙
上田 敏
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
土屋 弘吉
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
江口 壽榮夫
荻島 秀男
小野 啓郎
加倉井 周一
河邨 文一郎
五味 重春
斉藤 正也
沢村 誠志
武智 秀夫
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
間 得之
長谷川 恒雄
橋倉 一裕
福井 罔彦
三島 博信
渡辺 英夫
飯田 卯之吉
田中 照子
小川 孟
野村 歆
小島 蓉子
笹沼 澄子
鈴木 明子
高田 玲子
林 玉子
土屋 和夫
松村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)